

よっ葉だより

2022年
1月24日号
No.682

◆新型コロナウイルス感染症対策たすけあい募金◆



栃木県 860
群馬県 861
茨城県 862



2022年も安心してできる安全な食品をお届けしていきます

新型コロナウイルスの影響が経済や生活に大きな影を落とし、昨年末から急速に広まったオミクロン株が、医療など社会インフラが機能しない事態をもたらしかねない状況になっています。地球規模では、気候危機にともなう天災が火災、洪水、干ばつなどの形で起こっています。戦禍や貧困、格差により、平和や人権が脅かされている現状も続いています。

国内では、ゲノム編集トマト、マダイやトラフグなどゲノム編集動物の市場流通が始まり、イネやコムギなどのゲノム編集研究が続いています。日本は、遺伝子組み換え作物や除草剤(グリホサート)、ネオニコチノイド系農薬の世界有数の輸出国でもあります。農漁業では、異常低温(高温)や多(少)雨、不漁など気候危機の影響を受け、不作になったり逆に出来すぎたりと翻弄され、よっ葉の生産者も同様です。

世界的な脱炭素化の流れから、農業でも化学合成由来の資材を使わないことが求められるようになってきました。国の「みどりの食料システム戦略」では、2050年までに有機農業を100万haに拡大、環境保全型・脱炭素社会に向けて化学合成農薬・肥料やネオニコチノイド系農薬削減を掲げました。私たちにっては、安心して食べられる食品を

選ぶのが年々難しくなりますが、国内、地域内自給を軸に、誰がどのように作ったのかを知り、意識して選ぶことを続けましょう。

「よっ葉牛乳」の共同購入から始まったよっ葉生協は今年、創立40年を迎えます。引き継いできた理念「いのちと健康 暮らしを守る」を大切によっ葉の輪を広げ、これからも地産地消と独自基準に基づいた商品をお届けします。また、これまで以上に生産者とともに有機農業をはじめとした生物多様性を守る取り組みを進め、誰もが有機農産物を食べることでできる未来をめざします。

長引くコロナ禍で、失業や自殺する人が何倍にも増えています。どんな人も自分らしく健やかに生きられ、支え合う共生・共助社会の構築が急がれています。よっ葉生協でも引き続き、地域での活動に取り組みます。また事業の両輪である組合員活動は、可能な形での開催を検討していきます。

2022年が皆さまにとりましてよき年になりますように祈念するとともに、コロナ禍があらわにした課題に目を向け、誰もが生きやすい社会をめざして、努力を続けて参ります。

理事長 三輪 英理子

産地とつながる活動を大切にしていきます!!

写真は以前の
農業体験会・
産地訪問から



臨時総代会を開催しました

2021年6月の第39回通常総代会で承認された議案を受けた役員体制で、役員報酬額超過に伴う定款違反があり、昨年8月11日付「組合員の皆様へ」で「生協定款違反についてのご報告とお詫び」でご報告しました。臨時総代会に向けて管轄行政機関の栃木県や栃木県生活協同組合連合会のご指導のもと準備を進めて参りましたが、このたび臨時総代会を開催しましたのでご報告します。

よつ葉生活協同組合 理事会

<報告>

開催日時：2021年12月16日（木曜）AM10:00～10:40

会場：よつ葉生活協同組合 本部 会議室

総代定数：118名

出席総代数：112名（本人出席8名、代理人出席0名、書面議決104名）

第1号議案 2020年度決算修正報告・剰余金処分案・監査修正報告の件

2021年度、第39回通常総代会において、第1号議案（2020年度決算報告、監査報告）は議決されましたが、上記の定款違反が判明したため改めて修正報告を行い決議の取り直しを実施させていただきます。

管轄行政機関（栃木県くらし安全安心課）への届け出や栃木県生活協同組合連合会へ相談などは済んでおります。

また、新たに発生しました役員報酬追徴課税（法人税、事業税、法人住民税）は税務署に申告し、2020年度決算修正報告・剰余金処分案・監査修正報告を提案致します。

第2号議案 2020年度役員報酬上限額修正決定の件

2020年度、第38回通常総代会第5号議案役員報酬上限額（理事）3000万円に関して、以上の事実に基づき議決の取り直しを実施させていただきます。改めて役員報酬上限修正額（3500万円）を提案致します。

《議案採決の結果》

第1号議案 2020年度決算修正報告・剰余金処分案・監査修正報告の件

出席総代の過半数以上の賛成により原案通り可決決定した。（反対1票、保留4票）

第2号議案 2020年度役員報酬上限額修正決定の件

出席総代の過半数以上の賛成により原案通り可決決定した。（反対1票、保留7票）

（書面議決書で、賛成・反対・保留のいずれも記載のないものは保留とする。）

質疑応答の意見等（事前質問含み）

Q. 役員報酬が3000万円が3300万円になったとの事ですが、300万円もの誤差金が出てしまうのがなぜでしょうか？

A. 2019年度の役員（理事）体制では（非常勤理事長、常勤理事2名、非常勤理事16名）でしたが、2020年度は（常勤理事3名、常勤理事2名、非常勤理事13名）体制になったため、第38回通常総代会での役務決定後に役員報酬を算出した際、役員報酬3000万円を超えてしまうことが発覚し、2020年7月の第2回理事会承認にて常勤理事1名分の報酬を職員給与として計上としました。このことは定款違反にあたり修正申告が必要となります。

誤差金については常勤理事1名分を職員給与として支払った分を、改めて役員報酬計上に戻すと3300万円となります。

役員報酬と職員給与の合計額は181,944,320円で相違は御座いません。

Q. 紙面上の説明のみでは分からないので、役員報酬額の件で質問です。

役員報酬審議会の提案で職員給与に計上となっておりますが、職員側の経理に相談をしないで安易に理事会に提案できるものでしょうか？通常の常識で考えれば、理事と職員は全く別の計上会計と分かることです。

原因を明確にしなければ、今後の対策の結論がはっきりしないのではないのでしょうか？組合員の信頼関係もなくなります。

A. 内部体制上の問題が一番の原因であると認識しています。

経理会社に相談し管理部長（当時）の知識不足もあり、理事会にて承認されれば問題ないと思い2020年度の対応として 渉外担当理事（常勤理事）の報酬を職員給与計上とした。経理会社に今回の問題発生時の聞き取りでは、前専務理事は職員理事に戻るものだと思っていた。また、当時の専務理事（前専務理事）は、管理部長からの提案は、経理会社に相談の上のことなので問題ないと誤認識していた。役員・部長・経理会社の知識不足と話の行き違いを理事会で承認した経緯が今回の誤りとなります。

Q. 前総代会で決定した事項に違反し修正したから議案を変更しますでは済まない事例だと思います。使い込んだ金額の返却と説明を求めます。

A. 今回の臨時総代会は、定款記載事項を違反した役員報酬上限を職員給与計上したため、改めて議決の取り直しが必要であるということです。使い込んだ金額と返却を求めますとのことですが、役員報酬と職員給与の合計金額は 181,944,320 円で相違は無く、誰かが搾取したという類でないことはご理解ください。

但し、役員報酬と職員給与では税率の違いがあり、法人税追徴課税（928,100円）は支払いました。そのため全ての決算修正が必要となり、臨時総代会を開催する運びとなりました。

Q. 監事とは、監査役のことですね。監査役は、なぜ気づかなかったのでしょうか？ただの会計監査しか（数字あわせ）していないのですか？誰も責任をとらず、組合員の手前修正報告だけしておけばいいと言うものではないと思います。きちんと責任をお取り下さい。

（関わった方）

A. 監事の責任についてですが、今回の件は理事会全体の責任であると捉えています。

責任の所在については、監事1名が退任し、常勤役員報酬の一部を複数月自主返納としました。

Q. いつもお世話になります。どの時点で気付かれたというのは気になりますが、何れにせよ年度内に修正ができ良かったのではないかと思います。300万円は大きいですからというより金額に関係なく申告することは大事です。今後、このようなことがないよう役員の皆様には、がんばっていただきたいです。生協まつりも、やれなくとも残念ですが、来年はやれることを希望し楽しみに進みたいと思います。時節からお身体には、ご自愛くださいますよう・・・また元気にあいましょう。

A. 温かい励ましのお言葉や率直なご意見をお寄せいただきありがとうございます。

今回の件を踏まえ、2度と同じ過ちを起さぬよう内部統制の整備、規程・規則類の整備、法令、定款に基づいた生協運営を強化し、組合員皆さまの期待を裏切らぬようお応えするべく役員一同努力する所存です。

中津ミート・丹沢ハム工房の加工品（ハムソーセージ、総菜類）の原料豚肉変更のお知らせ

コロナ禍などの影響により、原料豚である丹沢高原豚の出荷頭数及び質量が足りていません。

そのため、加工品（ハムソーセージ、総菜類）の安定した供給ができるよう、2か所の協力農場の豚肉を1割程度、丹沢高原豚と合わせて使用していくこととなりました。協力農場の原料豚肉の肥育・餌については、遺伝子組み換え飼料を使わず、今までの品質を損なわない水準のものでありますので、ご安心ください。2月1週の取り扱い商品より変更となります。

今後ご利用をお願い致します。



産直委員会発 石塚さんのキャベツ畑（小山市）へ産地訪問して来ました

11月30日、小山市でありながら、自然いっぱいの場所に石塚さんのキャベツ畑はありました。

例年11月15日頃には霜がありますが、今年は暖かいのでキャベツの育ちが良く沢山余っているとのことでした。市場では、コロナの影響で外食産業が落ち込み野菜の消費が落ちているそうですが、不作の年も大変ですが、豊作でも、需要が無ければ農家さんの収入は伸びません。

石塚さんは、冗談好きなユーモア溢れる方でした。どうしたら土の微生物を増やし、農薬や化学肥料を使わずに美味しい野菜が作れるのか日々勉強し模索し、実践されています。おかげで私たちは安心安全な野菜を提供されています。

これからも同じようにお野菜を作っていただくには、いつも買い支え、食べて応援することが大事ですね。



（産直委員会担当理事 針谷光絵）

※規格外や余った野菜を無駄にしない為に、よつ葉生協には「もったいない野菜登録制度」があります。いつでも登録可能、詳しくはお問い合わせください。



参加してみませんか

WEB

オンライン Zoom えみさんちの春の花粉症対策！料理実演教室～



主催：よつ葉生協

問合せ：よつ葉生協 TEL 0120-07-1613（三輪・堀）

このイベントは、よつ葉生協ホームページで受け付けます。

「インフォメーション」をクリックし、 から「イベント」を選択、今回の行事のタイトルをクリックすると、詳細ページの下から申込みフォームに進めます。

・ご案内は、2月17日以降メールにてお送りします。

春になると新陳代謝が活発になり、溜め込んだ脂肪や、老廃物を排出しようとして、そんな時に気になるのは花粉症・・・毎日の暮らしで無理なく取り入れられる花粉症に効果が期待できる簡単レシピと食事についてお届けします。

日時：2月25日（金）10：30～11：45（受付10：15～）

会場：オンライン Zoom

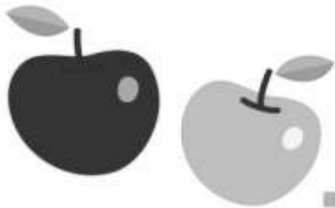
参加費：無料 定員：なし

締切日：2月11日（金）

ネオニコ不使用りんごオーナー制度が充実してスタート！

アップルファームさみずの「ネオニコチノイド系農薬不使用りんごオーナー」制度が来年度からさらに充実します。今後も安定してネオニコ不使用を広げるために、自然災害支援基金を新設し、お届け時期や量目、料金などを変更します。

詳しくは、来週お届けの2月3週くららでお知らせします。



【置き配のご利用をお勧めしています】

新型コロナウイルスの拡大が続いています。よつ葉生協では、置き配のご利用を進めています。お届けする商品を、玄関等ご指定の場所に置かせて頂きます。配送担当者にお申し出ください。

対面でお受け取りの際は、マスク着用のご協力をお願いします。

ご意見・ご感想をお寄せください。お名前と組合員番号をご記入の上、共同購入注文書またはお手紙をお願いします。掲載の方には粗品をプレゼントいたします。※掲載するにあたって事前ご連絡をすることはありませんので、ご了承ください。

新型コロナウイルス感染症対策たすけあい募金報告

ご協力ありがとうございます。 (12月3週～1月2週分)
組合員さんの助けあいの気持ち広がっています (単位：円)

栃木コロナ支えあい基金 (860番)	59,900
群馬コロナウイルス対策募金 (861番)	19,700
茨城誰かのために募金 (862番)	17,600
合計	97,200

共同購入注文書の該当番号に数量をご記入ください。
WEB注文の場合は、左側「企画商品・募金」内の「募金関連」をクリック。一口100円の募金になります。

東日本大震災・東電原発事故での支援金 募金報告

ご協力ありがとうございます。 (12月3週～1月2週分)

組合員さんの温かいお気持ちが今週も寄せられています (単位：円)

放射能から子どもを守る募金 (900番)	29,300
震災孤児を支援する募金 (910番)	108,400
「有機農業と国産種子」募金 (920番)	43,700
合計	181,400

共同購入注文書裏の「10品以上の記入欄」に該当番号と数量をご記入ください。
WEB注文の場合は、左側「企画商品・募金」内の「募金関連」をクリック。

『有機農業』ってこんな農業。

『有機農業』というと、『安全・安心』『健康に良い』農産物の生産、のイメージを持たれる方が多い農業生産方式ですね。

SDGs（持続可能な開発目標）の言葉が一般的となってきた今、みなさんにぜひ知っていただきたい、有機農業の持つ大切な機能は『生物多様性保全』機能です。

生物多様性とは、生きものたちの豊かな個性とつながりのこと。多様な生きものが、全て直接に、間接的に支えあって生きています（環境省）。

環境への負荷をできる限り低減した農業生産の方法で行われる有機農業は、トンボやカエル、魚や鳥、希少な植物など、多くの命を育てています。

環境にやさしい農業に取り組む生産者の応援をお願いします。



環境省 生物多様性
ホームページ



栃木県 有機農業
ホームページ



問合せ：栃木県農政部経営技術課 028-623-2286

よつ葉生協は、栃木県生協連と栃木県との包括連携協定に基づき、県の広報に協力して「いっしょ」

●編集・発行よつ葉生活協同組合 小山市栗宮 1223

☎0120-07-1613 TEL 0285-45-9100 FAX 0285-45-9101

HP <http://yotsubacoop.jp/>

よつ葉だよりメールアドレス yotsubadayori@yahoo.co.jp



ホームページ



Facebook



Instagram

